

中古車販売分野における自動車関連情報利活用の方向性

2014年4月10日



一般社団法人日本中古自動車販売協会連合会

■アジェンダ

< A G E N D A >

- はじめに
- 中古車業界における問題点・課題
- ビッグデータ構築概念図
- 利活用① トレーシング機能
- 利活用② 統計・マーケティング機能 1・2
- 利活用③ 中古部品流通支援機能
- 本施策の全体イメージ
- 自動車関連情報利活用に向けての課題

■はじめに

MOTAS情報を基幹とする自動車関連情報の集積とその活用により、中古車業界の積年課題解決への有効な施策を実現することが可能。

一般消費者の利益こそが販売事業者の利益につながるという概念のもと、あくまで消費者ニーズ、社会ニーズに基づく施策とし、中古車市場のさらなる流通活性化、健全化に資する3つのプランを検討しました。

■中古車業界における問題点・課題

【中古車業界における問題点・課題】

① 情報の非対称性

→中古車特有の課題。

中古車の適正な流通による市場の健全性を維持するため、売り手と買い手のもつ情報の非対称性を解消すべく、商品車両に関する**情報開示**を進める。

② 販売事業者介在価値向上

→業者への信頼感が低く、個人間売買のシェアが高い米国中古車市場に対し、日本はプロ（販売店）が介在するモデルとして今日までの発展と最低限の秩序の維持が実現できていると考えており、商材の特性上、将来に渡り**事業者介在モデルの進化**の方向性を検討している。

CtoCではリプレイスできない介在価値をより高いレベルに磨く必要がある。

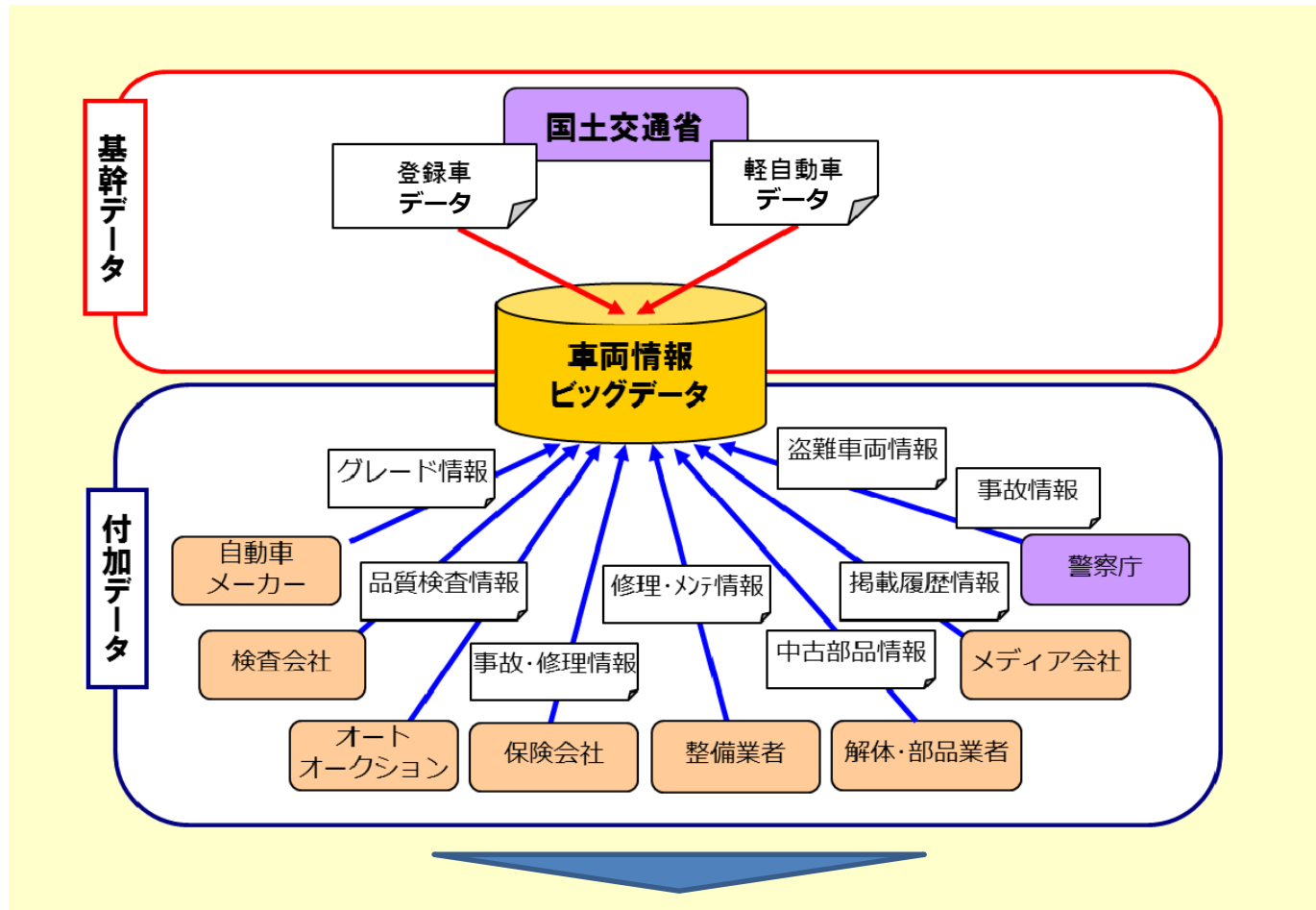
③ リユースの推進

→中古車は完成品の再利用という側面では流通は活性化しているものの、廃車等の際に発生する**利用可能な部品をリユース**するという側面では、その流通が確立されているとは言い難く、システム化の余地が大きいと考えている。



3つの課題解決を支援する利活用プランを検討

■ビッグデータ構築概念図



①情報の非対称性

- ・車両トレーシング機能
(使用履歴レポート)

②販売事業者介入価値向上

- ・統計、マーケティング機能
(小売支援レポート等)

③リユース促進

- ・中古部品流通支援機能
(パーツDB構築)

■活用① トレーシング機能

・情報の非対称性課題に対する商品情報の詳細開示の施策

- ①情報の非対称性
- ②販売事業者介在価値向上
- ③リユースの推進



山下 晋様 ご依頼車両のトレーシング結果をお知らせ致します。

■調査車両
車台番号 **QZS772970-267**

【基本データ】

車名	トヨタクラウンワゴン	新車時カタログ情報 1987年に登場した8代目クラウンの5ドアステーションワゴンが1999年まで延々と作られていたトヨタのトップ・オブ・ワゴン。マークII同様、それなりに商品力を向上させながら売られ続け、イメージ的には個人事業主や中小企業オーナーの社用車兼パーソナルカーとして一定の人気を得ていた。四角いボディスタイルととにかく大きくて長いラゲージスペースはパーソナルに乗りこなすには用途に限られるが、乗用兼商用としてはこれ以上望めない使い勝手とユーティリティをもつワゴンであった。裏返せばバンモデルが販売の多数を占めていた、ということにもなる。1998年に最後の改良を受けた。そのラインナップは2L直6搭載の5ナンバースーパーデラックス、同エンジンおよび2.4Lディーゼルトーポ、2.5L直6の3ナンバーモデルとして7人もしくは8人乗りの設定もあるワゴンであった。横一線絶壁のインパネが時代を感じさせ盛り上がるハイルーフも個性的だ。
グレード	ロイヤルサルーン	
型式	AZS-1DA	
サイズ	長4690×幅1790×高1550	
カラー	ホワイトパール	
駆動形式	2WD(FR)	
燃料	無鉛プレミアム	
排気量	2500cc	
初登録	1995年10月	
生産期間	1987年9月～1999年11月	
新車価格	202.5～342.2万円	

中古車相場: 10～240万円 中古車相場表 [この車種で中古車物件を探す](#)

【詳細データ】

2006年4月JUジャンナイト掲載写真

□所有者・車両情報

	①	④	②	×	⑦	⑤	③	×××
95年10月	001111	001111	021111	021111	030303	030303	040404	040404
	月	月	月	月	月	月	月	月

【オーナー履歴】

★現在は3人目のオーナーです

★①神奈川県女性 ②兵庫県男性 ③岡山県男性

【販売店履歴】

★④神奈川県販売店 ⑤岡山県販売店

【盗難情報】

★04年04月盗難

【AA履歴】

★⑥JU埼玉 評価点3.5 ⑦USS神戸 評価店 R

【事故・修理情報】

★02年11月事故
フロント、右サイド破損、修理費用38万円

□車両状態

イメージ

修復歴 有・無

特記事項 修復歴 (下記の①～⑨に当たる部分の修正及び交換歴)

標準 交換	①フレーム (サイドメンバー)
<input type="checkbox"/>	②クロスマンバー
<input type="checkbox"/>	③フロントインサイドパネル
<input type="checkbox"/>	④ピラー (フロントセンター及びリア)
<input type="checkbox"/>	⑤ダッシュパネル
<input type="checkbox"/>	⑥ルーフパネル
<input type="checkbox"/>	⑦フロアパネル
<input type="checkbox"/>	⑧トランクフロアパネル
<input type="checkbox"/>	⑨ラジエーターサポート

(註) 修復歴のあるクルマであっても、走行上は支障ありません。詳細は係員にお尋ね下さい。

車名	形式
初年度登録 年 月	車台番号
車検	走行距離 Km
保証期間 ヶ月 千Km	整備記録簿 有・無

印刷

Powered by 株式会社〇〇〇〇〇〇

■利活用② 統計・マーケティング機能-1

〈機能概要〉各種マーケティング分析により販売店経営を支援

①情報の非対称性

②販売事業者介在価値向上

③リユースの推進

■調査車両
車台番号 JZS130 323334

【基本データ】

□車名	トヨタクラウンワゴン	□駆動形式	2WD(FR)
□サイズ	長1855×幅1390×高1270	□燃料	無鉛プレミアム
□発売年月	H7年12月	□新車価格	202.5~342.2万

【車検情報】

□初度登録	1998年10月	□最新車検日	平成18年9月1日
□前回車検時 走行距離	127,300 km	□車検有効期限	平成20年9月まで
□前回車検時走行 距離	101,800 km	□オーナー数	3人(販売店含め6人)
□現在の使用の本拠 地	東京都	□最新の用途/自家 用・事業用の別	乗用/自家用

【車歴情報】

1998年10月	初度登録:1人目(1998年10月~2002年11月)
2002年11月	移転登録:神奈川県販売店にて販売(2002年11月~2003年4月)
2003年4月	移転登録:2人目(2003年4月~2005年3月)
2006年9月	継続検査 車検時走行距離:101,800km
2004年11月	事故 フロント、右サイド破損 修理費用38万円
2005年3月	移転登録:岡山県販売店(2005年3月~2005年8月)
2005年8月	移転登録:3人目(2005年8月~2007年1月)
2006年9月	継続検査 車検時走行距離:127,300km
2007年1月	移転登録:東京都販売店(2007年1月~)

【その他】

□盗難履歴	この車両がこれまで盗難にあった報告はありません。
□事故履歴	この車両がこれまで事故にあった報告はありません。
□火災履歴	この車両がこれまで火災にあった報告はありません。
□冠水履歴	この車両がこれまで冠水被害にあった報告はありません。
□リコール履歴	この車両はリコール対応済みです(○●○年▲月現在)

【小売支援情報】

【一般情報】
1987年から1999年まで製造されていたトヨタのトップ・オブ・ワゴン。かつては個人事業主や中小企業オーナーの社用車兼パーソナルカーとして一定の人気を得ていた。

【ターゲットとする層】
現在は当初、新車として販売されていた頃と比較すると経年劣化が進み、相場価格帯も安くなっている。そのため若年層を中心としたゴルフや釣りなどの大きな荷物を取納する必要があり、アウトドアを楽しむ層に好まれる傾向にある車種となりつつある。内装自体は高級感があるが、比較的手ごろな価格で購入できることが人気につながっている。

【売れ筋季節/地域】
上記の理由により、冬のボーナス季節よりも圧倒的に夏のボーナス季節に需要が多くなる。また、大都市圏での需要が大きいが、ゴルフ場の多くある北海道、千葉県、群馬県、兵庫県などでも多くの需要を抱えている。

【販促方法】
車そのものでは、機能面/内装の高級感がセールスポイントになるが、この車種を利用したゴルフや釣りの顧客の本来の楽しみ方に訴求することが、この車種を売る際の大きなポイントになっている。

【相場価格情報】

□中古車AA相場価格: 5~170万円
□中古車小売相場価格

[詳細情報を見る](#) [詳細情報](#)

履歴情報に加え、
販売店向けの小売
支援情報も記載

イメージ

年式 価格	1993年 (H5年)以前	1994年 (H6年)	1995年 (H7年)	1996年 (H8年)	1997年 (H9年)	1998年 (H10年)	1999年 (H11年)
200万円以上	0	0	1	10	15	20	35
~200万円	4	2	2	2	3	2	2
~175万円	5	5	5	4	2	2	3
~150万円	5	4	6	6		2	5
~125万円	5	4	7	6			
~100万円	6	6	7	7			

販売店等の仕入時、
販売時の目安となる
相場価格情報を表示

□表示車両と同一年
式の平均小売価格の
変動情報



①情報の非対称性

②販売事業者介入価値向上

③リユースの推進

■利活用② 統計・マーケティング機能-2

〈機能概要〉 各種マーケティング分析により販売店経営を支援

- 中古車市場における車種別ボリューム予測
- 自店商圈エリア内の車検時期別台数や車種構成等を把握
- 仕入れ（AA・買取）価格のサポート
- 在庫車種入れ替えサポート

検索に用いるキーを指定してください

1	地域別	▼
2	車種別	▼
3	メーカー別	▼
4		▼
5		▼

集計単位を指定してください

月ごと ▼

対象期間を指定してください

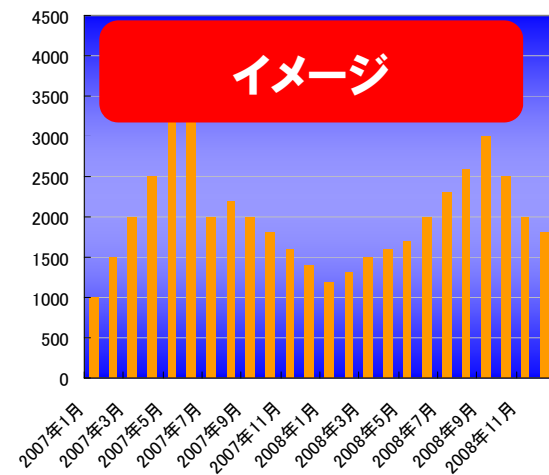
開始	2000年	▼
	4月	▼
終了	2006年	▼
	3月	▼

検索対象地域 : 全国 & 関西圏

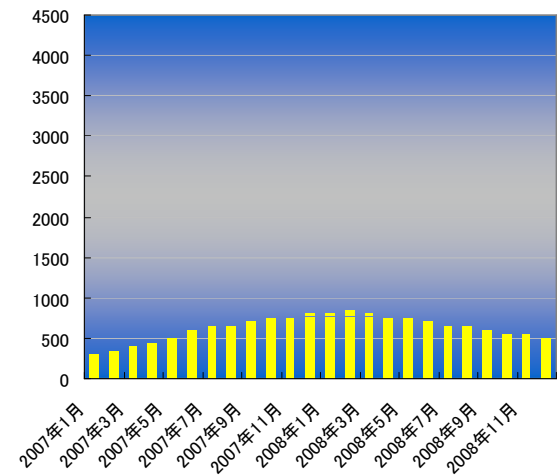
メーカー : ニッサン

車種 : マーチ

車検タイミング(全国)



車検タイミング(関西圏)



■利活用③ 中古部品流通支援機能

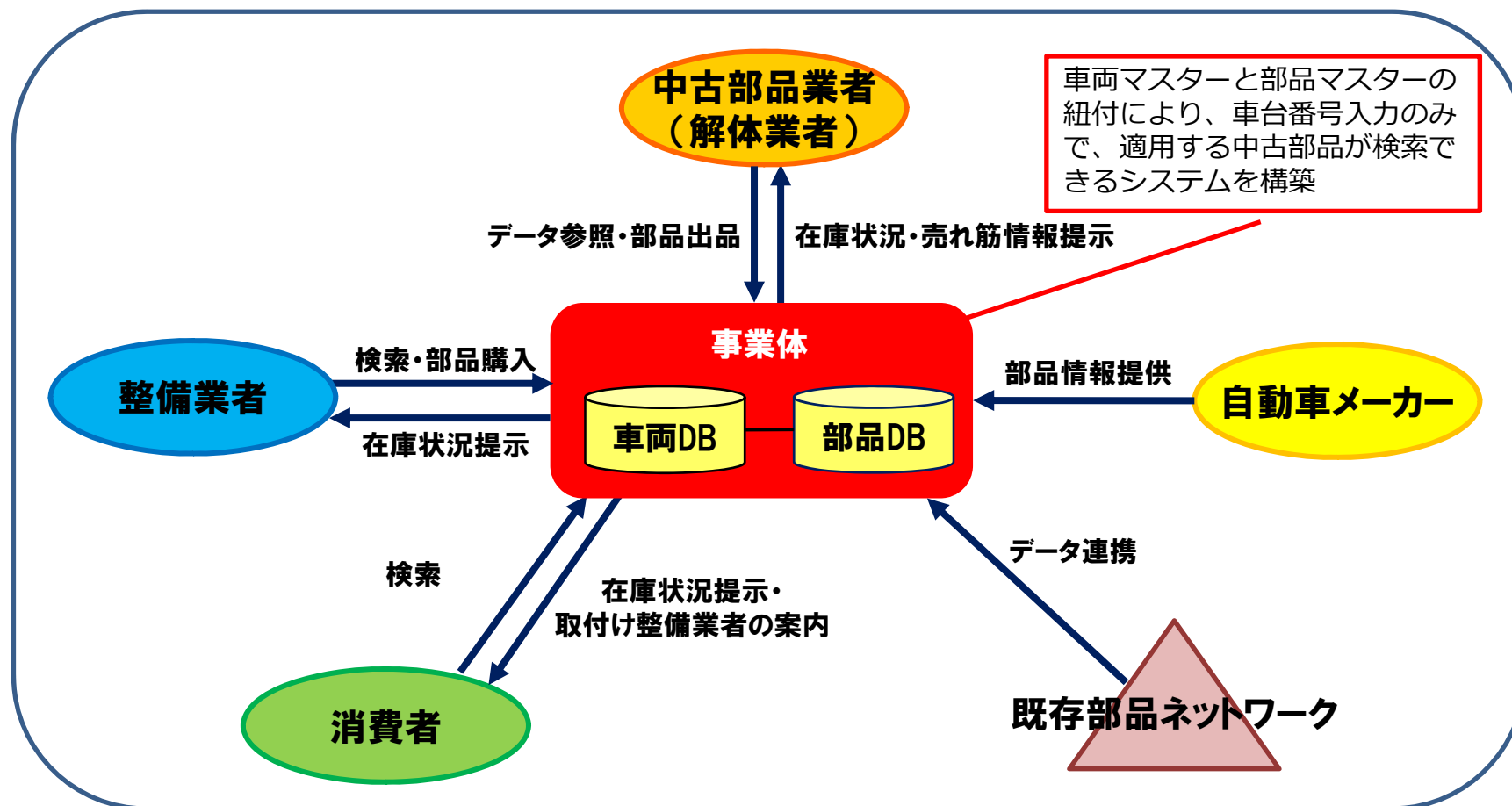
①情報の非対称性

②販売事業者介在価値向上

③リユースの推進

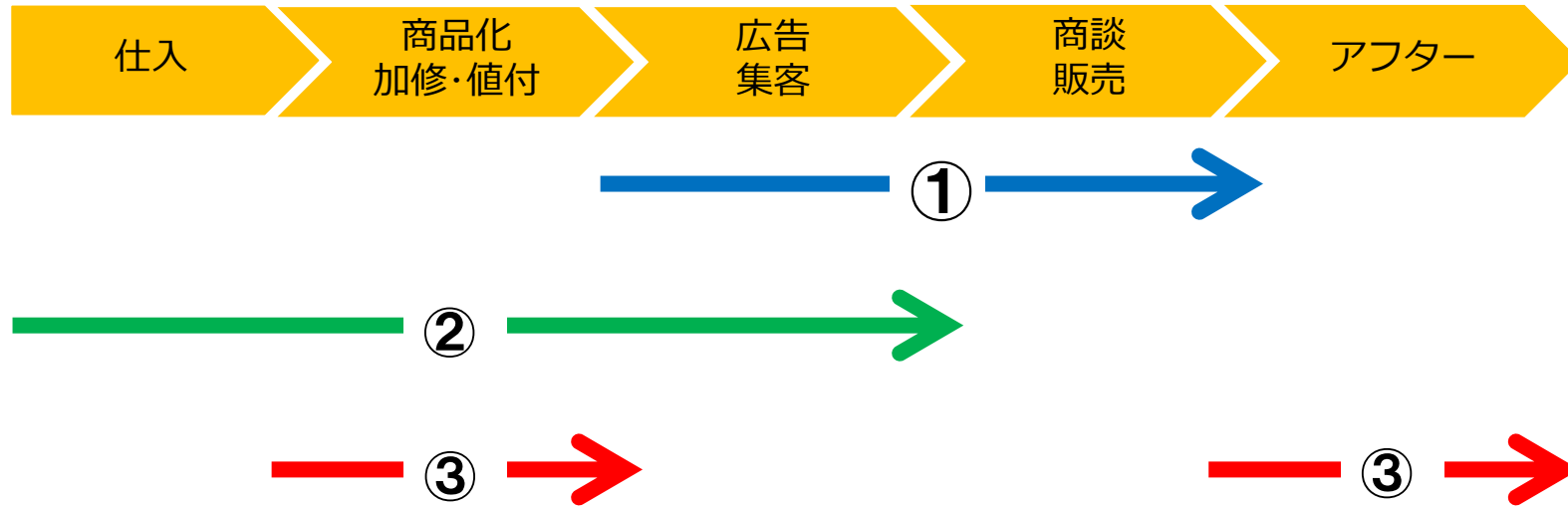
<機能概要>

- 中古部品業者（解体業者）が、中古部品を売ることができる
- 整備業者が、中古部品を買うことができる
- 消費者が、中古部品取付けサービスの検索をすることができる



■本施策の全体イメージ

<中古車販売店バリューチェーン>



- ① トレーシングにより商品車の品質情報を詳細開示。
- ② 統計・マーケティングにより、適正な仕入れと、適正な値付けを支援
- ③ 中古部品流通システムにより、中古部品を積極活用しコスト削減が可能に

この施策を通し、

消費者に **①安心** **②適正** **③安価** をもたらすことができます。

■自動車関連情報利活用に向けての課題

①極めて高い情報収集難易度

自動車関連情報の収集が困難。

要因は**情報提供者の提供メリット**と情報利用者との**受益アンバランス**。

②データの種類と網羅性

MOTAS等を基幹とした各種データの肉付けは**その種類と網羅性**が必須。

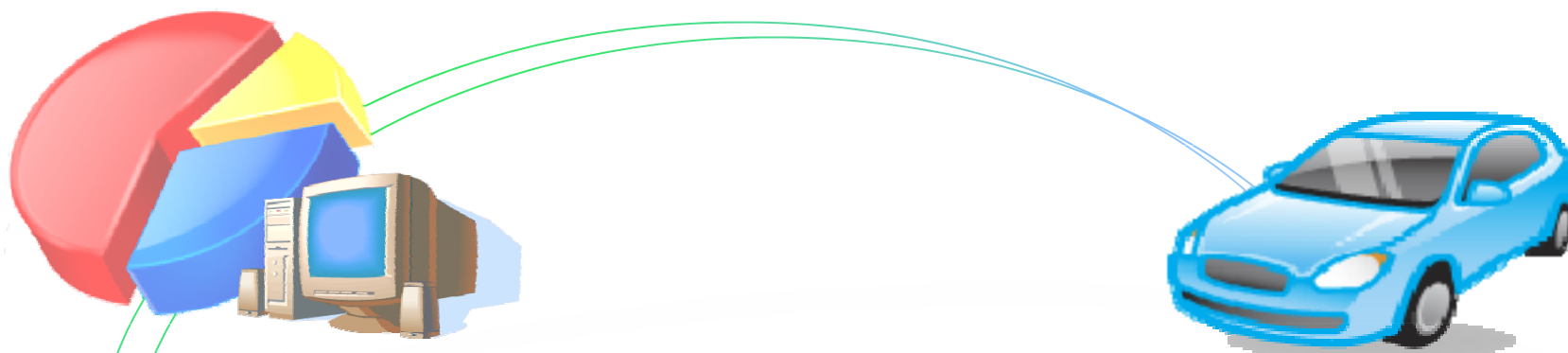
網羅できて初めて価値を発揮するため。

③情報取得コスト

①の受益不均衡の解消は「金」ということにならざるを得ず、最終的な**情報取得コストが高騰**する。この高（原価）コストを吸収し、利益を上げるビジネスモデルとなると、高額単価で商品化せざるを得ず、結果的に利用者が居なくなるという悪循環に陥る。

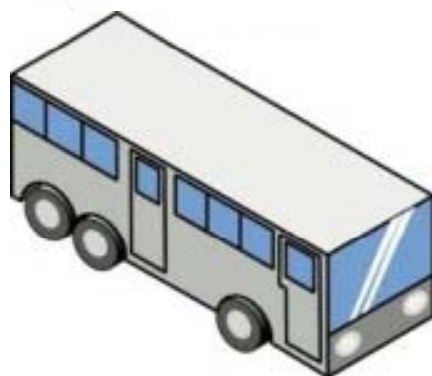


国が自動車関連情報の収集を担い、**非競争領域の用途に限り**情報提供するという第一ステップが有効であると思われます。



一般財団法人 自動車検査登録情報協会の取り組みと今後の課題について

平成26年4月10日



自動車検査登録情報協会の業務概要について

主要業務は、「自動車登録情報の電子的提供」、自動車の保有関係手続きのワンストップサービスにおける「各種証明書情報の電子的集約・管理・回答業務」、「自動車保有車両数の統計作成業務」など。略称は「自検協」。

主な経緯

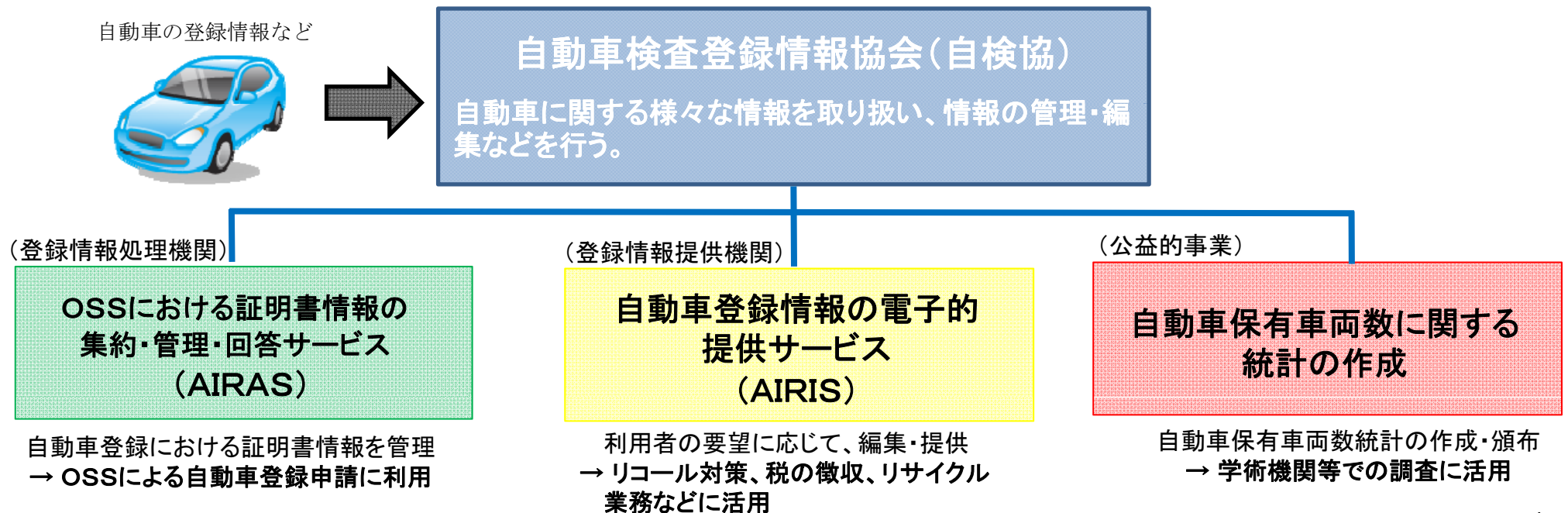
■ 昭和42年：法人の設立

※国の自動車登録検査情報処理システムの円滑かつ効率的な運用をサポートする目的で設立

■ 平成17年：登録情報処理機関の登録
(道路運送車両法第96条の2)

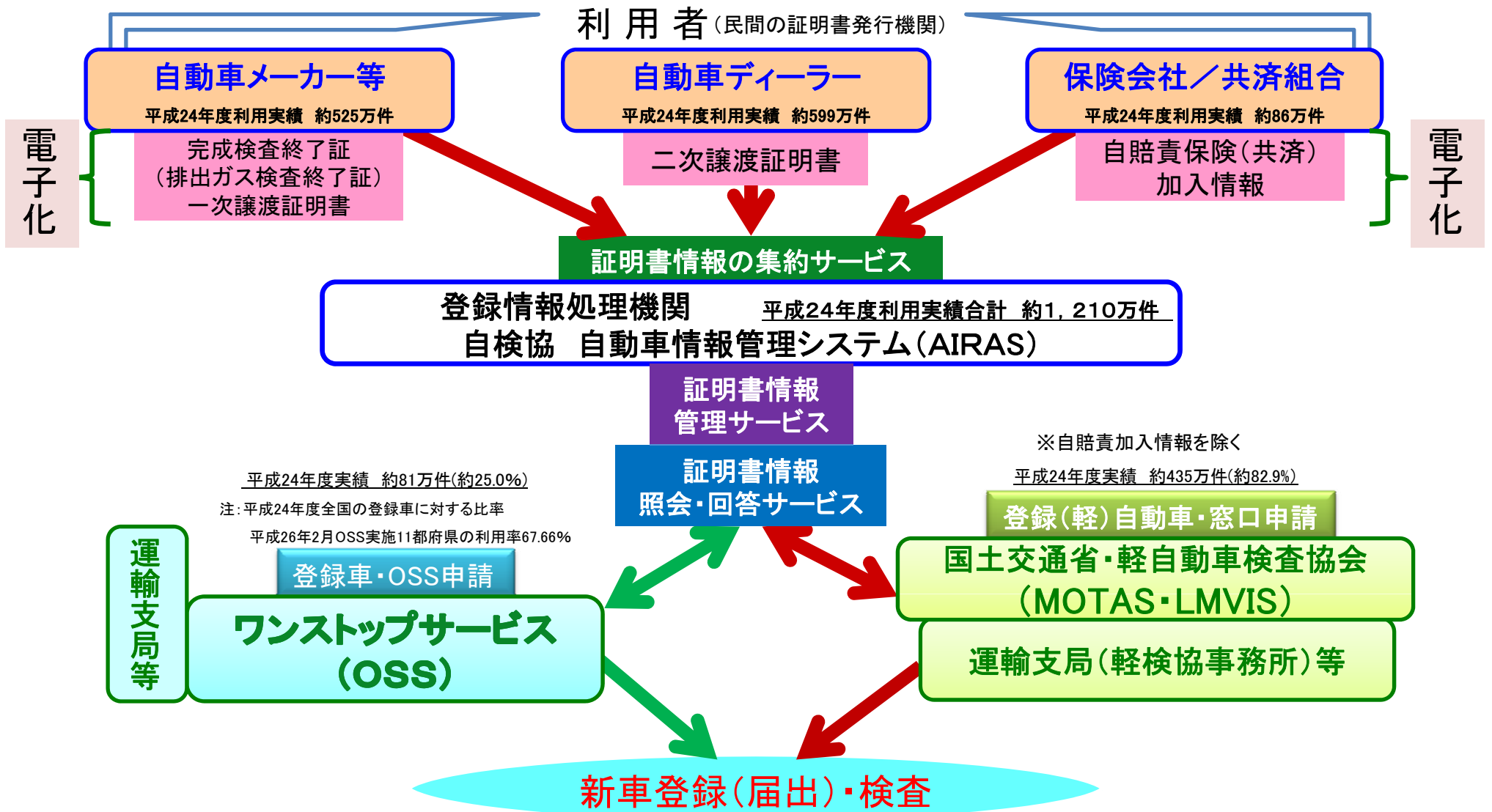
■ 平成20年：登録情報提供機関の登録
(道路運送車両法第96条の15)

■ 平成24年：一般財団法人へ移行



登録情報処理機関の取扱いサービス

登録情報処理機関は、民間の証明書発行機関と国の行政機関との橋渡し役として民間からの電子化された証明書情報を集約・管理するとともに、国のワンストップ(OSS)等のシステムからの照会に応じて証明書情報を確実に回答(平成16年5月:道路運送車両法の改正、平成17年11月:登録情報処理機関の登録、平成17年12月:サービス開始)



登録情報処理機関のサービスの現状及び今後の取り組み

証明書情報処理サービスは、OSS申請や型式指定車以外の車両、軽自動車、OSS実施対象地域外の車両の窓口申請にも利活用

OSS申請

➤29年度末までに11都府県から
全国47都道府県に拡大

《OSS利用率の向上》

➤一般ユーザーの利点
・対象手続き拡大による利便性向上
・登録諸費用の負担の軽減

窓口申請

•OSS実施対象地域外の車両
•登録車の型式指定車以外の
車両
•軽自動車

➤OSS対象手続きの拡大
•継続検査等
•軽自動車
•小型二輪車

利用
拡大
へ

➤ディーラーの利点
•登録拠点集約により業務の効率化・合理化
による経費削減及び利便性向上
•保管場所申請・受領負担が大幅に軽減 等

利用者の利便向上・負担軽減

登録情報提供機関(電子的提供サービス)の創設

運輸支局等の窓口で書面(登録事項等証明書)のみで提供していた自動車登録情報を、パソコン等で利用することを可能とするため、国土交通省は道路運送車両法を改正し、電子的提供制度を創設。

経緯

- 平成18年 5月19日:道路運送車両法改正
- 平成19年11月18日:改正道路運送車両法施行
- 平成20年 1月30日:登録情報提供機関の登録
- 平成20年 4月 1日:登録情報提供サービス開始

(登録事項等証明書等)

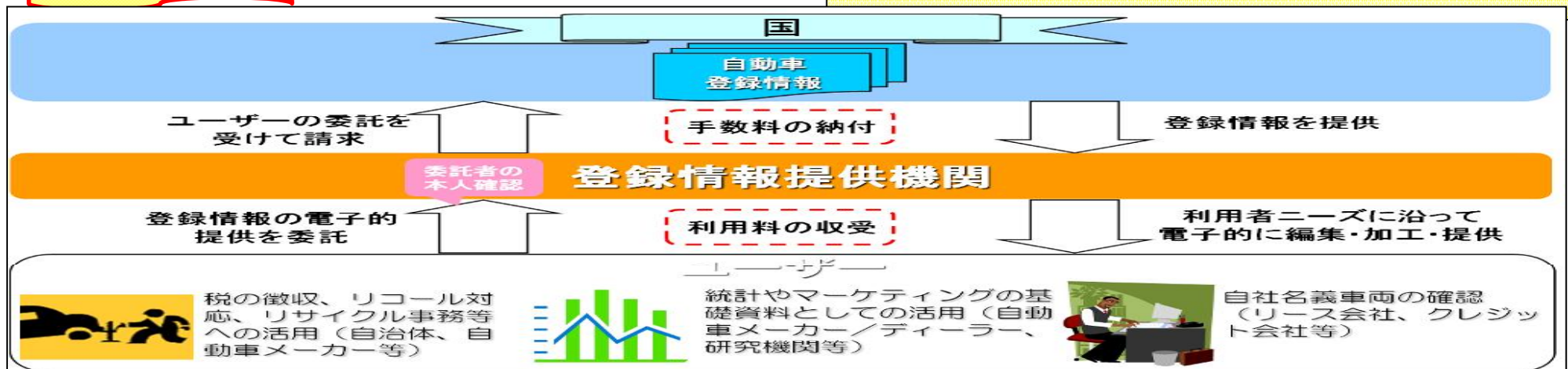
第22条 何人も、国土交通大臣に対し、登録事項その他の自動車登録ファイルに記録されている事項を証明した書面(以下「登録事項等証明書」という。)の交付を請求することができる。

2 前項の規定により登録事項等証明書の交付を請求する者は、国土交通省令で定めるところにより、第百二条第一項の規定による手数料のほか送付に要する費用を納付して、その送付を請求することができる。

3 第九十六条の十五から第九十六条の十七までの規定により国土交通大臣の登録を受けた者(以下「登録情報提供機関」という。)は、登録事項その他の自動車登録ファイルに記録されている情報(以下「登録情報」という。)の電気通信回線による提供を受けようとする者の委託を受けて、その者に対し、国土交通大臣から提供を受けた登録情報を電気通信回線を使用して送信する業務(以下「情報提供業務」という。)を行うため、国土交通大臣に対し、当該委託に係る登録情報の提供を電気通信回線を使用して請求することができる。

4~6 略

制度イメージ



電子的提供サービスにおける提供可能項目

利用者の利用目的をはじめとして、一件ごとに国土交通省の審査・承認を経て提供。国土交通省の自動車登録ファイルに記録されている情報を提供可能。

主な提供可能項目

自動車登録番号	
車台番号	
所有者情報	所有者コード
	所有者氏名又は名称
	所有者住所コード
	所有者住所具体名
使用者情報	所有者コード(使用者)
	使用者氏名又は名称
	使用者住所コード
	使用者住所具体名
	使用の本拠位置住所コード 使用の本拠位置具体名

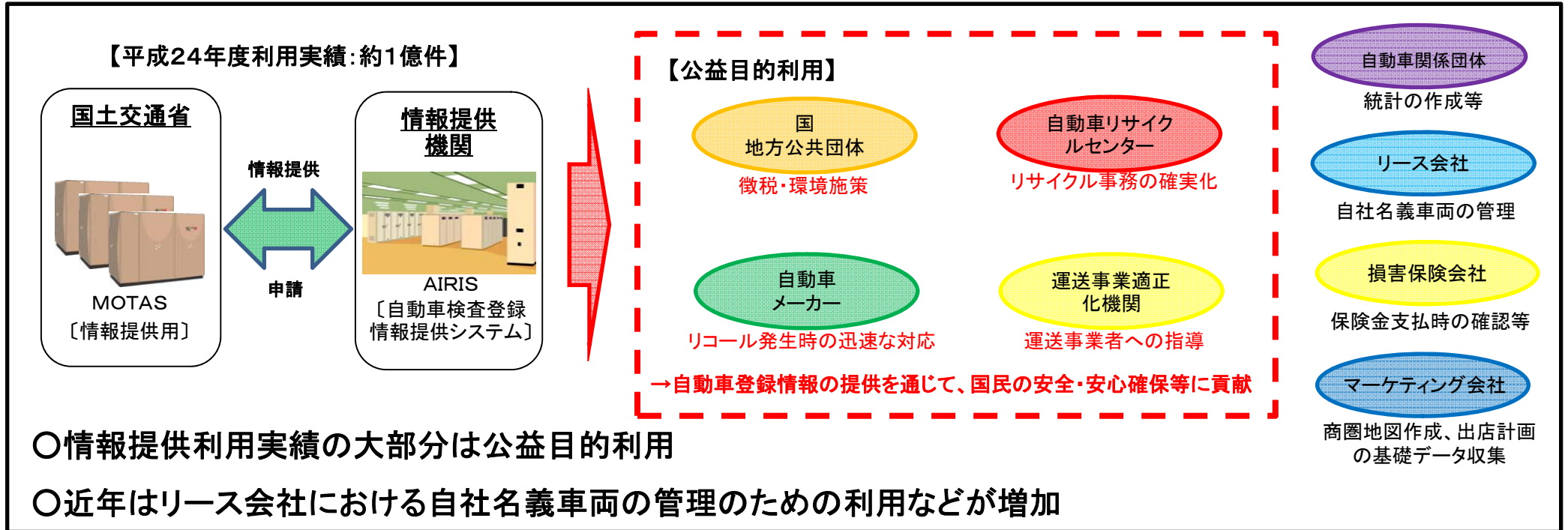
管轄支局	型式指定番号
登録年月日	類別区分番号
初度登録年月	乗車定員
車名	最大積載量
型式	車両重量
原動機の型式	車両総重量
自動車の種別	長さ・幅・高さ
用途	(車検の)有効期間の満了日
自家用／事業用の別	燃費基準達成車情報
車体の形状	NOx・PM規制情報
排気量又は定格出力	車検時走行距離
燃料の種別	リサイクル関連情報

etc.

- ・所有者、使用者に係る情報、自動車の諸元情報(長さ・幅・高さ等)、環境性能に関する情報(排ガス規制・燃費情報等)等、情報の内容は幅広い。
- ・個人情報以外の情報であっても、マーケティング目的での利用をはじめ、情報の有用性は高い。

電子的提供サービスの利用事例

自動車のリコール対応、国・地方公共団体における徴税事務、自動車リサイクル事務処理などの公益目的を中心として、幅広く利用されている。



利用者の声

○自動車登録情報とその他の関連情報を紐付けて提供してほしい

→例：リコール情報、リサイクル料金、通称名、標準価格 など

○関連情報を含めて、一元的に管理・提供してほしい

○システムの稼働時間を延長してほしい

→現状：9：00～17：00（年末年始除く）

○大量利用を前提とした料金形態にしてほしい。

→割引制度の導入、柔軟な料金制度の導入 など

自動車保有車両数統計書について

公表データを基に、わが国で唯一、自動車保有車両数に関する統計書を作成・頒布。自動車保有車両数に関する統計が広く社会インフラとして認知。

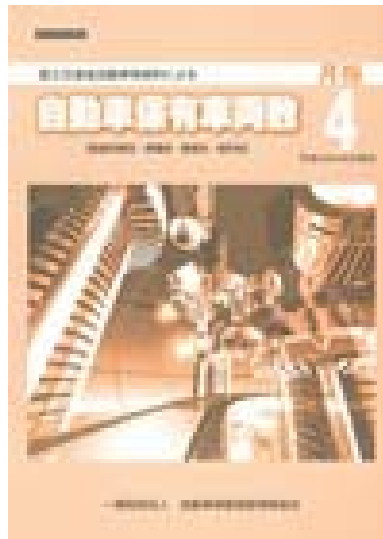
統計書の種類

■ 月報

毎月末の自動車保有車両数を車種別・都道府県別等に作成・頒布

【統計の種類】

- ・都道府県別
- ・車種別
- ・燃料別



■ 年報

毎年3月末の自動車保有車両数を市区町村別・初度登録年別等の切り口で作成・頒布

【統計の種類】

- ・市区町村別
- ・初度登録年別
- ・車体の形状別
- ・諸分類別
- ・燃料、排気量別
- ・輸入車



➡ **学術機関での調査研究、民間企業における経済指標として活用**

○自動車ユーザーの利益のために

- ・自動車ユーザーの負担軽減など、ユーザーに利益が生じるものであれば歓迎
- OSS等の電子手続き拡大による代行手数料などの負担軽減
- ・個人情報に関する不安

→**個人情報保護の明確なルール作りが不可欠**

○社会全体の利益のために = 自動車ユーザーの利益のために

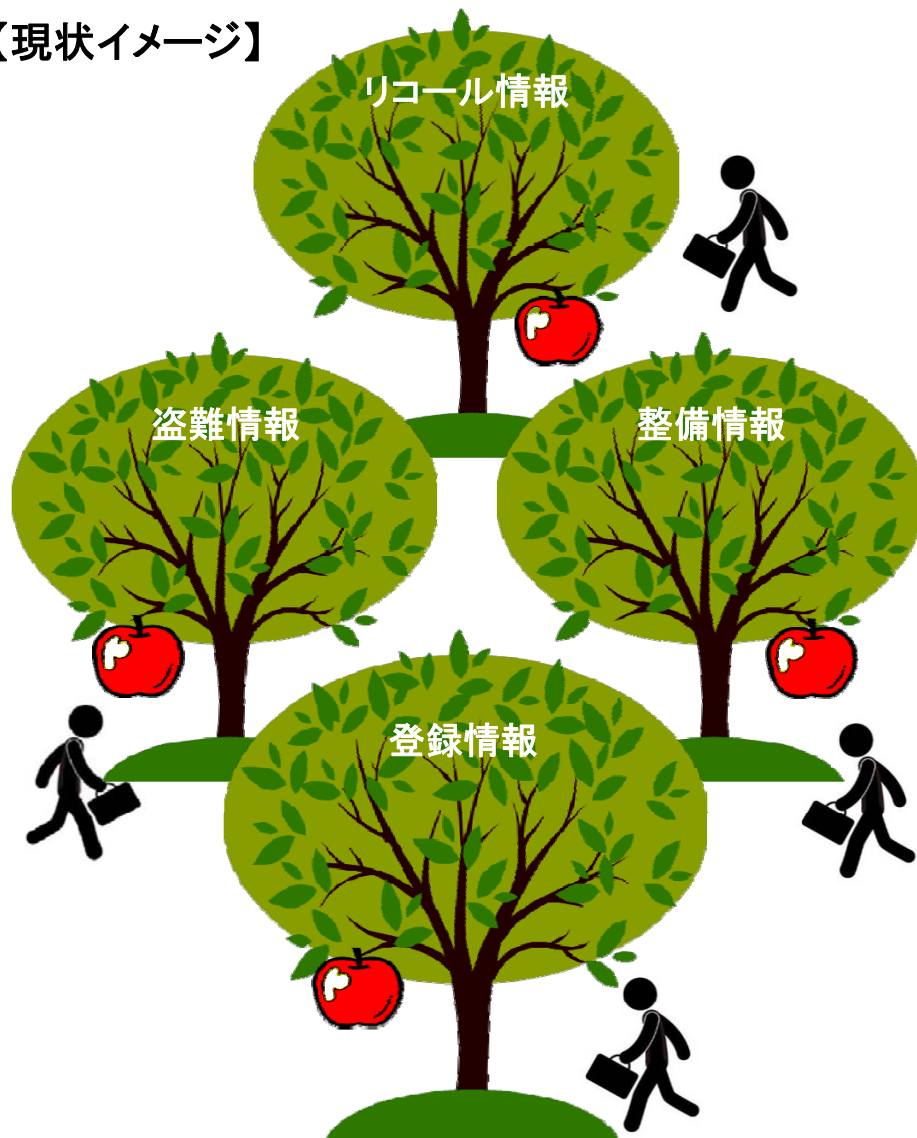
- ・自動車情報を活用して自動車販売店等の効率化・合理化を推進
- 自動車ユーザーの負担軽減に寄与
- ・自動車情報を活用して販売戦略等の基礎データとして活用
- 自動車販売店やスーパーなどの店舗立地計画やポスティングエリアの決定など
- ・運送事業適正化機関(事業者指導など)の利用を拡大することにより、安全・安心のさらなる充実を図る
- ・情報を取得・利用することについて、企業コンプライアンスをクリアできるか
- ・自動車情報の大量利用を想定した料金設定
- ・当面、自動車登録情報と様々な自動車関連情報を紐付けて利用範囲を拡大
- 中古車購入時に事故歴を確認できる など

→**様々な情報を一元的に管理・提供する仕組み作りが必要**

将来ビジョン検討にあたって ②

他の情報と組み合わせて、有用性を高めることが重要。また、自動車登録情報をはじめとした様々な情報を提供するにあたっては、一元的な情報の管理・提供が望ましい

【現状イメージ】



【将来イメージ】

